

きらめき



IWATE CHRISTIAN
EDUCATIONAL INSTITUTION

～光の子として歩みなさい～

(聖書 エフェソの信徒への手紙5章8節)

NO.15

Jul.2026

学校法人岩手キリスト教学園機関誌

特集

岩手キリスト教学園設立40年の歩み

ひかりの子 子育て支援施設 Waters of Rest 開所

成長させてくださるのは神です

川崎 なおみ

岩手キリスト教学園
認定こども園のぞみこども園
日本キリスト教団館坂橋教会

代表業務執行理事
園長
牧師

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、
成長させてくださったのは神です。ですから、
大切なのは植える者でも、水を注ぐ者でもな
く、成長させてくださる神です。

聖書 コリントの信徒への手紙一3章6～7節

認定こども園のぞみこども園は今年の1月で創立70年を迎えました。教会の祈りによって生み出された園として、70年の長きにわたり神様に支えられてきたことを心から感謝しています。昨年4月からのぞみこども園に5代目の園長として着任し、岩手キリスト教学園の仲間として日々過ごせることを神様に感謝しています。

早いもので新年度が始まり4ヶ月目となりました。子どもたちは春から夏にかけての4ヶ月、様々な経験を重ねました。新しい友達も増えて毎日楽しく生活しています。

さて、0～6歳の子どもたちは日々の園生活の中で、何を感じ生活しているのでしょうか。私たちにも子ども時代はありましたが、どんなことを考えていたかはつきりと覚えていない方は少ないでしょう。特に乳幼児期の記憶が鮮明に残っている方は少ないのではないのでしょうか。子どもたちは毎日の生活の中で確実に成長しています。毎日会っていると分かりませんが、久しぶりに会う近所のお子さんなどは成長を感じやすいものです。私にも高校生の息子がいます。県外の全寮制の学校に行っているのほとんど会うことができません。スマホの持ち込み禁

止の学校なのでなかなか連絡を取ることできません。先日、授業参観・保護者会で久しぶりに会うことができ、マイペースながらも成長していると感じることができました。

のぞみこども園では夏に向けて年長児がコスモス、二十日大根、朝顔、向日葵の種を蒔きました。すでに葉が何枚も出て、子どもたちは成長を楽しみにしながら、水やりをしています。きれいな花が咲くのがとても楽しみです。

コリントの信徒への手紙に「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させてくださったのは神です。」との御言葉があります。神様が育ててくださっているのは花だけではありません。子どもたち一人ひとりを愛の眼差しで見下り、育ててくださるのです。同じ子どもでも、毎日いろいろな顔を見せてくれます。同じ目がないと言っても過言ではないほど、様々な経験を重ね、それぞれが個性を発揮しながらユニークに育っていきます。

おうちの方々から時々「うちの子は成長が遅くて…」とか「周りの子はきちんとしてきているのに、うちの子はうまくできない…」などと心配する声を伺うことがあります。けれども、子どもは一人ひと

りと、神様が与えて下さった違う個性を持っていきます。取り巻く人間関係も、日々の経験も異なります。ご家庭でも、園でも、私たち大人が世話をしたり、教えたり、一緒に様々なことに取り組んだりしていますが、同じ環境で過ごしているように見える双子であつても同じ性格にはなりません。

先日、病院の待合室でNHK6月のみんなのうたで「ザ・ダッピーズ」という歌が流れていました。昆虫たちの脱皮の様子が歌となっていました。せみ、蝶、だんごむし、サソリ、海老、カブトガニなど様々な脱皮が面白く、楽しく歌われていました。この歌を聞いて、子どもたちだけでなく大人である私たちも、様々な場面で神様によって鍛えられ、成長（脱皮）させていただいていると感じました。

おうちの方々や保育者の力だけで、子どもたちの育ちが変わるものではありません。神様が一人ひとりを愛し、成長させてくださることを信じ、それに委ねて、共に子どもたちの育ちに関わっていかれたらと思います。

「成長させてくださるのは神です。」この御言葉に励まされながら祈り、歩んでいきましょう。



学校法人 岩手キリスト教学園

IWATE CHRISTIAN EDUCATIONAL INSTITUTION

40th Anniversary

40年の歩み



学校法人岩手キリスト教学園が設立されたのは1985年4月。学園誕生から昨年度で40年を迎え、7月20日には設立40周年の歩みに感謝する記念式典（礼拝）を行います。教会が生み出した小さな二つの幼稚園が力を合わせてスタートした「連合学園」。宗教法人立の幼稚園から公的にも広い責任を負う学校法人への転換は当時、多くの困難が伴う挑戦でした。今日の学園の姿は、神さまの導きとキリスト教保育に揺るがぬ信念を持って取り組んだ先人達の祈り、努力の礎の上に成り立っています。学園設立の歴史を振り返り、さらに前へ進みます。

連合学園を

始めに「連合学園」の設立を呼びかけたのは、遠野教会の牧師で遠野聖光幼稚園園長だった故・太田春夫先生でした。当時、教会附属の幼稚園は宗教法人立。老朽化した園舎の整備や補修をしようと思っても、国や県の補助金対象にはならず、自己資金で賄わなければなりません。必要な保育環境を整え、キリスト教保育を将来にわたって展開していく

ためにも学校法人の設立が欠かせないと考えたのです。意を決して同じプロテスタント信仰に立つ県内の教会附属幼稚園に連帯を呼びかけました。しかし、大きな体制変換になかなか賛同が得られませんでした。一時は遠野聖光幼稚園単独で学校法人を目指そうとしたそうです。そんな中、連合学園構想に最初に手を上げたのが青山幼稚園でした。

事務手続きの期限が迫り、太田先生は遠野と盛岡の間を幾度となく行き来し、学校法人設立の申請書類を整えたといいます。当時、自治省（現在の総務省）から岩手県の学事文書課長に派遣されていたキャリア官僚の井上源三（もとみ）さんらにも助けられ1985年4月、青山幼稚園と遠野聖光幼稚園の2園で岩手キリスト教学園が設立されました。その後、1986年4月に日詰幼稚園（現・認定こども園ひかりの子）、1988年4月にのぞみ幼稚園（現・のぞみこども園）、1993年4月にひかり幼稚園（現・認定こども園宮古ひかり）が加入し、5園を基幹園とする連合学園が形成されました。

認定こども園へ

学園が設立された1980年代後半、すでに少子化が顕在化しはじめ、幼稚園

経営は厳しい環境に置かれていました。一方で女性の社会進出などによって共働き家庭が増加し、保育所のニーズは急激に高まっていきました。国も将来を見据え、幼保の一体的な運営を模索。2006年には認定こども園法が施行されます。学園の加盟園も、こうした流れの中で、0歳児から就学前まで一貫して教育・保育ができる環境へと舵を切ります。

県内で2番目、学園内では最も早く2010年に認定こども園化に踏み切った日詰幼稚園（認定こども園ひかりの子）は、「長年、幼稚園として子どもの育ちを見てきた中で、0歳児からの育ちに連続的に関わることで園の理念をより具体化できると考えた。さらに、幼稚園・保育園の垣根を取り払い、親が就労の有無によらず、子の入園を選択できる施設となるため認定こども園化に踏み切った」と百年記念誌にその理由を記しています。2011年にはのぞみ幼稚園、2013年には遠野聖光幼稚園、2014年には青山幼稚園が認定こども園に移行。2015年には子ども・子育て支援新制度の施行に伴い現在の園名に変更します。2015年11月には宮古のひかり幼稚園が、東日本大震災後の教会移転、新園舎整備に合わせて閉園し「認定こども園宮古ひかり」として新たなスタートを切りました。



岩手キリスト教学園 40th 40年の歩み Anniversary

遠野聖光幼稚園 旧園舎お別れの記念写真。
1987年5月15日。学校法人化によって園舎の建て替えが実現しました

保育ニーズの多様化

男女共同参画の進展、少子高齢化や人口減少など乳幼児を取り巻く環境が大きく変わる中、子育てに地域全体で取り組む必要性は、さらに高まっています。

こうした流れを受け、幼稚園型認定こども園の青山幼稚園は2014年、2歳児から保育ができるよう認可外保育施設すみれ（現・保育機能施設すみれ）を併設。2020年6月には連携園として2歳児未満の子どもを受け入れる小規模保育所「上堂ホサナ保育園」を開設しました。ひかりの子ども同年7月に小規模保育所「アガベ保育園」を開設しました。

2022年には、宮古ひかりが民家を活用し定員5名の「家庭的保育事業ぶどうのき」を開設。盛岡地区では、のぞみこども園が中心になって、盛岡市の公立保育所民営化計画に手を挙げ、2023年4月に、きたくり保育園が市から学園に移管されました。きたくり保育園は2026年4月から幼保連携型認定こども園に移行しています。

また、ひかりの子は不登校の子どもたちの居場所として2016年から「フリースクールこといろ」を運営。多様な学びに寄り添っています。のぞみこども

園は就学後の保育ニーズに応え2018年に、のぞみ学童保育クラブを開設しました。さらに、この4月、ひかりの子は長年にわたる子育て支援事業の積み重ねから、子育て世帯に限らず、地域住民も憩えるカフェ「Waters of Rest」を開設しました。

揺るがぬ志のもとに

基幹5園が認定こども園となり、2010年代後半に学園は園児数600人、職員数は200人を超える規模となりました。しかし、保育施設の急増やコロナ禍後の急激な少子化の進展で園児数の減少は近年加速しています。発達に特性を持つ子どもへの配慮など子どもの育ちに必要な支援が多様化する中、幼児教育・保育、子育て支援の有り様は日々、変化が求められており、たゆまぬ努力を続けていかなければなりません。

学園の法人理念の冒頭には「イエス・キリストとの交わりに支えられて、互いに信頼し合い、連帯して子どもたちの心身の健全な発達を願い設立された法人である」と設立趣意が示されています。各施設の独自性を尊重しながらも、互いに信頼し連帯して子どもたちのために尽く



認定こども園ひかりの子の100周年を祝う記念写真。2019年

していこうという決意が読み取れます。キリスト教精神をもって教育・保育を行うという揺るがぬ志のもと、時代の変化に柔軟に対応し、これからも歩んでいきます。人格形成の大切な時期、学園で過ごす子どもたちの中に「自己肯定感」「非認知能力」「目に見えないものを大切にする心」「命の尊厳を大切にする心」など確固たる生きる力が育まれていくことを願ってやみません。



青山幼稚園創立70周年を祝う園児たちの発表。2024年10月(上)

遠野聖光こども園の100歳の誕生日を祝う園児たち。2021年11月。ホール壁には優しいまなざしで子どもたちを見守るブゼル先生の肖像が常に掲げられています(右)



まかれた幼児教育の種～宣教師たちの働き

明治・大正期、日本の幼児教育の始まりに大きな役割を果たしたのが外国人宣教師たちでした。子ども一人ひとりを神さまから与えられた大切な存在と捉え、各地でキリスト教精神に基づく保育を実践したのです。

学園の中で最も長い歴史を持つ、認定こども園ひかりの子(前身・日詰幼稚園)は佐羽内(さばない)哲三牧師、シュレーヤー宣教師夫妻を中心に宗教法人日本基督教会日詰伝道所附属幼稚園として1919年に創設されています。

認定こども園めぐみ遠野聖光こども園(前身・遠野聖

光幼稚園)は、仙台の尚絅女学院の校長も務めたアメリカ人のアンネー・S・ブゼル宣教師が農繁期に手をかけてもらえない子どもたちの保育を始めたのがきっかけで誕生しました。1921年には遠野バプテスト教会の会堂を借りて遠野初の幼児施設を開所。1971年には宗教法人日本基督教団遠野教会附属幼稚園となりました。

戦後も各地でキリスト者が幼児教育をはじめ地域の復興に尽力します。戦中の宗教弾圧を経験した舘坂橋教会牧師の大住三郎・吉野夫妻は、キリスト教主義の幼稚園を作るという強い信念のもと、どんな家庭の子どもでも受け入れられるよう当時、盛岡市内で一番安い保育料を設定し、のぞみ幼稚園を開いたと伝えられています。

太田春夫先生を偲んで

学校法人岩手キリスト教学園

理事長 森分和基

2026年4月26日、太田春夫先生が天に召されました。

太田先生は、当法人の岩手キリスト教学園の創設者であり、長年二代目理事長として法人の設立、運営に寄与してくださいました。現在の岩手キリスト教学園があるのは、太田先生がその基礎を丁寧に作ってくださったからだと言っても過言ではないと思います。出来得るならば、創立40周年の記念礼拝でメッセージをして頂きたいと願っていましたが、その願いは叶いませんでした。

岩手キリスト教学園は、1985年に認可を受けました。1980年頃から国の制度がどんどん変わり、保護者や子どもが置かれた環境が劇的に変化しました。この時期に岩手キリスト教学園という法人が設立されていなければ、当法人内の施設が現在も存続できていたか疑問に思うことがあります。

その太田先生が牧師として、あるいは園長として大切になされていた

ことは、出会いを大切にし、出会った人たちとつながり続けることだったと思います。更に、もう一つ太田先生が大切にされたことは、おそらく「民主主義」であつただろうと思います。「民主主義」というと難しくそうですので、金子みすゞ氏の言葉を借りるならば「みんなちがって、みんないい」ということです。その意味で、一人ひとりが尊重されることを大切にされ続けておられたと思います。

その太田先生が作ってくださった土台の上に、私たちの法人が運営されているのです。だからこそ、私たちも出会いを大切にし、一人ひとりが尊重される保育を、園運営を、法人運営を行っていくことが出来ればと願っています。

太田春夫先生が天国での平安の中におられること、そして神さまと共に私たちの歩みを見守ってくださいることを信じています。



故 太田春夫先生

Waters of Rest

(ウォーターズ オブ レスト)

営業日 毎週火曜～金曜日

(第2土曜日はモーニング)

営業時間 11:00～15:30

ランチ 11:00～14:30(LO14:00)

カフェ 11:00～15:30(LO15:00)

ドリンクやスイーツをテイクアウトできます！

定休日 土曜・日曜・月曜・祝日

アクセス アガペ保育園隣り

TEL 070-3874-1919(担当:伊藤)

019-672-2542(ひかりの子)

HP www.hikarinoko-hizume.ed.jp



誰にとっても優しい
憩いのカフェ OPEN！

Waters of Rest

認定こども園ひかりの子の新しい子育て支援施設Waters of Restが4月、紫波町日詰のアガペ保育園隣りにオープンしました。子育て中の親子はもちろん、どなたでもくつろげる憩いのカフェです。ほっとするひとときを過ごしませんか。

Waters of Restは1階がカフェスペース、2階が親子を対象にしたワークショップなどに利用できるフリースペースになっています。

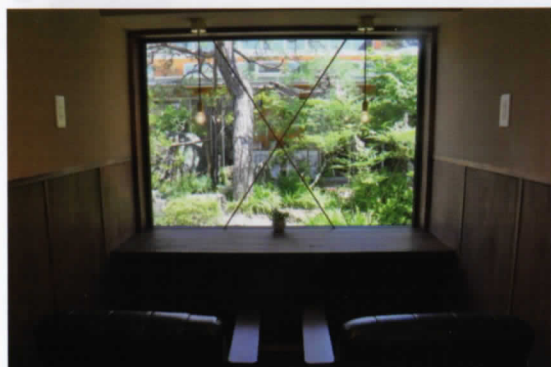
「タンポポの気持ちになってお花の深呼吸をしてみましょう！」6月4日、カフェ2階のフリースペースでは子育て支援イベント「おやこのじかん パパ、ママとあそぼう！」が開かれ、8カ月～1歳2カ月の子どもとママ、3組が親子のふれあい遊びを楽しみました。親子向けヨガのインストラクター・佐々木志歩さんの声に合わせて、お日様や雨のポーズをとったり、カンガルーのスタイルで抱っこしたり。ママの膝の上はバスにも、飛行機にもなります。ほどよく汗がにじむころには互いが打ち解け、お昼は親子でカフェランチ。参加したママの一人は「いつもは子どもと二人だけ。同年代のお子さんたちと一緒に遊べてうれしいです」と笑顔を見せていました。

Waters of Restは、認定こども園ひかりの子が10年あまり取り組んできた子育て支援事業「子育て支援カフェ」から生み出されました。少子化や核家族化が進み、ともすれば孤独な子育てになりがちです。親子で過ごすかけがえのない時間を大切に、困ったとき、不安になったとき、ふと立ち寄れる場、親も子もありのままを受け入れてもらえる場、

そして地域の方々ともつながり笑顔になれる場に等々、たくさんの方に込められています。お茶を飲みながら子育ての相談をしたり、仲間同士の集まりに利用したり。第二土曜日の朝は、日詰商店街で開かれる朝市に合わせ、ワンコインで朝ご飯が食べられるモーニングの営業もしています。

子育て支援カフェを担当する伊藤裕紀子保育教諭は「ひかりの子は日詰幼稚園時代から百年以上にわたって地域に愛されてきました。その支えに感謝しつつ、子どもから高齢者まで、みんながつながり合える誰にとっても優しい居場所にしていきたい」と話していました。

(きらめきつうしんに関連記事)





子育て支援イベントは、親子のふれあい遊びや製作の他、預かり保育をお願いしてパパ・ママが好きなことに打ち込める「もくもくの日」、親子でおいしい夕食を味わう「夜カフェ」など多彩。保育者と子育てについておしゃべりも。



Waters of Rest

カフェで提供される「ひかりっ子ランチ」（日替わり）は、認定こども園ひかりの子で提供される給食メニュー。身体に優しく栄養満点。デザートと飲み物もついて800円。

岩手キリスト教学園の施設

- 認定こども園青山幼稚園(園長 大原 敬)
(保育機能施設すみれ)
盛岡市青山3-6-27
電話019-647-0223
- 認定こども園めぐみ遠野聖光こども園
(園長 菊池千咲)
遠野市中央通り3-10
電話0198-62-2150
- 認定こども園ひかりの子(園長 張仁恵)
(フリースクールこという)
紫波町日詰字下丸森130
電話019-672-2542
- (子育て支援施設Waters of Rest)
電話070-3874-1919
- 認定こども園のぞみこども園(園長 川崎なおみ)
(のぞみ学童保育クラブ)
盛岡市館向町21-7
電話019-624-5651
- 認定こども園宮古ひかり(園長 森分和基)
宮古市西町3-3-26
電話0193-62-6845
- 上堂ホサナ保育園(園長 千葉真理子)
盛岡市上堂1-4-10
電話019-656-0235
- アガペ保育園(園長 及川理恵)
紫波町日詰字郡山駅184-1
電話019-613-2635
- ぶどうのき(園長 佐々木妙子)
宮古市山口3丁目2-23
電話0193-65-6283
- きたくり保育園(園長 前田直子)
盛岡市厨川1-7-1
電話019-641-4330

各施設が未就園児の親子等を対象にした子育て支援事業にも取り組んでいます。日程や内容は各施設へお気軽にお問い合わせください。

伝えたい本の力 ～夏編～



8月10日(月)、11日(火・祝)の2日間、盛岡市の奥羽キリスト教センターで、「11ぴきのねこフェスティバルin盛岡」が開かれます。絵本「11ぴきのねこ」シリーズ第1作が、(株)こぐま社から発刊されたのは1967年。来年で60周年を迎えます。世代を超え半世紀以上にわたって愛されてきた「11ぴきのねこ」の世界を味わい、楽しめます。

著者の馬場のぼるさん(1927～2001)は青森県三戸町の出身。原画の展示や青森県立美術館学芸員による解説なども予定しています。

フェスティバルにちなみ、善隣館書店員が「11ぴきのねこ」の魅力を紹介します。夏休みの思い出に、ぜひ、会場におこしください。

善隣館書店員とっておきの「11ぴきのねこ」



11ぴきのねことへんなねこ



1989年発行

11ぴきのねこシリーズはどれを読んでも面白いけれど、その中から夏にぴったりの1冊を選びました。「11ぴきのねことへんなねこ」えっ、11ぴきよりももっとへんなねこがいるの!? そうなんです(笑)。

11ぴきのねこたちの前にある日すまし顔であられるみずたま模様のねこ。へんなねこ。しかも嬉しいと変色します!

いったいこのねこの正体は?

はじめはへんなねこだと警戒していた11ぴきもちょくちょく現れるへんなねこが気になってしかたありません。みんなで後をつけてみると・・・あいかわず、ヘンな気を起こし、へんなねこの居ない間に出し抜こうとしますが・・・

みずたまもようのへんなねこは11ぴきのねこたちよりもずっと上手(うわて)でした。

11ぴきのねこたちはいつもいい行いとは言えない真逆の事をしますが、それがなんと人も人間らしい? 憎めない11ぴきなんです。今回のお話はなんと宇宙が出てきます。なんともロマンチックで、叶ったらいいなあ～と思うのですが。

夏空にむかってみんなであげた花火はごほうびのように美しいページです。そのあとには、出し抜くどころか、へんなねこに見事なまでに一杯食わされあんぐりとくちをあげ空を見上げる11ぴきたち。やっぱり最後はうまくいかない、だけどなんとともほっこりした気持ちになる、そんな1冊です。(大森 紀代美)



1972年発行



1976年発行



1996年発行

(株)こぐま社発行の「11ぴきねこ」シリーズは全6冊。残りの3冊も思わず笑ってしまう楽しい絵本ばかりです!

11ぴきのねこふくろのなか



1982年発行

「カリギュラ効果」。人は「やってはいけない」と言われると、かえってやりたくなる現象。

11ぴきのねこたちのえんそくがはじまりました。しかしそのゆくてには、やってはいけないことばかり。

「はなをとるな」！「きけん！はしをわたるな」！

「木にのぼるな」！「ふくろにはいるな」！等々。

ことごとく破っていくねこたちは、ついに大変なことに。しかし、それをはねかえし無事に帰ってくるのも「カリギュラ効果」でした。ユーモアと共感と教訓と子どもたちと大人たちに贈る楽しい絵本。（佐々木 章）

11ぴきのねこ



1967年発行

馬場のぼるさんの「11ぴきのねこ」シリーズ最初のおはなし。

おさかなを、たんまりお腹いっぱい食べたい猫たちには、夕焼け空の雲までが魚の群れに見えていました。そんなある日、じいさんねこからの情報で、おおきなさかなを目指すことに。シリアスな冒険ストーリーになるかと思いきや、「なあんだ」「あはは」と肩の力がぬけて、妙にホッとするような結末が用意されています。

近頃は、小学校でも読み聞かせの後に子どもたちに感想を聞いたり、「この話にはどんな意味があるのか」なんて考えさせる傾向があるような気がします。こどもも大人も、そのまんま、感じるままに楽しんでほしい絵本です。楽しいのが1番！

このシリーズ、登場人物が表紙に必ず出てくるそうで、この絵本も「あれ、10ぴき？」と思いきや、裏表紙にとらねこたいしょうがいますよ。ふふふ。（浜田 陽子）



開催時間：午前10時～午後5時

・馬場のぼる絵本の読み聞かせ
（奥中山こひつじ文庫の皆さん）

・青森県立美術館学芸員
板倉容子氏による解説（随時）

・11ぴきのねこマラソン大会
大パノラマ展示

・善隣館書店 佐々木店長による
しりとり歌「ぶたたぬききつねねこ」

・絵本やキャラクターグッズ販売

奥羽キリスト教センター

（1階に善隣館書店）

〒020-0025

岩手県盛岡市大沢川原3-2-37

TEL/FAX 019-654-1216



三戸から、とらねこ大将の
着ぐるみもやってくるよ！

地域の方へ「ありがとう」

認定こども園青山幼稚園

保育教諭 吉原 さやか(よしはら・さやか)

花の日礼拝の日に地域の方へ感謝の気持ちを伝えに行ってきました。年少組の子どもたちは一生懸命作ったお花の製作を手に、ワクワクした気持ちとドキドキした気持ちを胸に出発しました。行き先は、みんなが大好きな消防署です！青山幼稚園の近くには消防署があり、サイレンが鳴ると幼稚園まで聞こえてくることがあります。

「いま、きゅうきゅうしゃのおとがしたね！」「しょうぼうしゃかな？」と声を弾ませて教えてくれる子どもたち。消防署に到着すると、目の前に並ぶ大きな消防車や救急車に目を輝かせていました。

消防士さんの優しいまなざしに子どもたちの緊張もほぐれ、感謝の気持ちをしっかりと伝えることができました。その後は、特別に緊急車両の中まで見せていただき、「おおきいね！」「かっこいいね！」「これはなんのボタンかなあ？」と興味津々な様子でした。

憧れの気持ちを抱きながら幼稚園に戻ると、ブロックで消防車を作ったり、お絵かきで体験を表現したりと、遊びの中でも楽しかった経験を再現する姿が見られました。地域の方々への感謝の気持ちを伝えるとともに、私たちの暮らしを守るために働いてくださる方々の存在を知り、感謝する心を育む貴重な一日となりました。



認定こども園めぐみ遠野聖光こども園

保育教諭 佐々木 愛咲美 (ささき・あさみ)

たくさんの愛で



雲一つない青空の下、散歩へ出かけると、保育者に抱っこされながらお花に触れようと手を伸ばす子の姿。戸外の心地良さを感じているうちに、ベビーカーに揺られてぐっすり眠る子どもたち。6月から入園して数週間が経った今、寂しさや不安でいっぱいだった子どもたちも、保育者のそばで安心して過ごせるようになってきました。

先日の保育参加では、親子で七夕製作やふれあい遊びを楽しみました。楽しさを体で表現したり、手を合わせて一緒に祈ろうとしたり。0歳児ならではの可愛い表現が見られ、微笑ましい瞬間がたくさんありました。

写真では伝えきれない嬉しい瞬間が、ここに 있습니다。一つ一つの成長が嬉しく感じられ、たくさんの愛や喜びで溢れるような毎日を、子どもたちとともに過ごしていきたいと思っています。



認定こども園ひかりの子

副園長 岡 あやこ(おか・あやこ)

旧日詰幼稚園から大切にしてきた「花の日礼拝・訪問」が、今年も6月に行われました。

神さまが創られた美しいお花を、各ご家庭からたくさんお持ちいただき、色とりどりの花があふれました。

年長組の子どもたちは、そのお花を使ってフラワーアレンジメントをつくり、心を込めて礼拝堂に飾り牧師先生のお話を通して、神さまが花をはじめとする自然の命、そして世界のすべての命あるものを創造してくださったことを知り、恵みの時をもちました。礼拝後には日頃お世話になっている紫波警察署と紫波消防署を年長組が訪問し、感謝の気持ちを込めて賛美歌を歌い、フラワーアレンジメントと年中組が制作したポスターをお渡しし、神さまからいただいた恵みを分かち合うことができました。



命ある恵みを分かち合って



アガベ保育園

保育士 熊谷 悦子(くまがい・えつこ)

家族の日に向けて、大好きな思いや、「いつもありがとう」の気持ちを届けようと、保育者といっしょに、フラワーアレンジメント作りを楽しみました。手指を使って、コップにシール・マスキングテープを貼り、思い思いに飾りました。1歳児は、お花をオアシスに生けては外すことの面白さを味わいながら、アレンジメントづくりを行いました。2歳児は、はじめは茎が折れてしまうこともありましたが、少しずつコツをつかみ、「できた〜!」と嬉しそうに言葉で表現していました。

アガベ保育園の子どもたちは、花の日礼拝の時に、ひかりの子の年長児から、フラワーアレンジメントのプレゼントを頂きました。そのときの「きれいだね!」「つくってみたいね!」という思いが、今回の製作あそび(フラワーアレンジメント)への意欲にも繋がっていたように感じます。大好きなお家の人を迎えに来ると、子ども達は「ありがとう」の気持ちを伝え、温かな言葉に包まれて、笑顔いっぱいひとときとなりました。

いつもありがとう〜「家族の日」



認定こども園のぞみこども園

保育教諭 熊谷 美里（くまがい・みさと）

お外で遊ぶの大好き♡

「今日は園庭で遊びます！」や「お散歩に行くよ〜！」と言うと「やった〜！」「イエーイ♪」と喜んで手をあげたり拍手したりするほど外遊びが好きなおりーぶさん。先日行ったお散歩は、歩きたい子、散歩車に乗り景色を楽しみたい子など様々で、お花を観察したり、働く車に手を振ったりと楽しくお散歩に行ってきました♪

園庭でお兄さん・お姉さんクラスのお友だちと会う機会が増え、手をつないだり、三輪車の後ろに乗せてもらったりなど一緒に遊ぶ楽しさや嬉しさを少しずつ感じ始めているようです。

これからも季節の自然に触れながら、安全に楽しく園庭遊びをしていきたいと思います。



のぞみ学童保育クラブ

放課後児童支援員 太田 冴（おおた・さえ）

裸足を楽しむ



学童の庭は、子どもたちが裸足であそぶことができるように人工芝を敷いています。宿題が終わると保育室の掃き出しの窓を大開放して裸足でお庭に！体を動かしてあそんだり、ごろごろ寝転んだり、水浴びをして涼んだり。芝生の柔らかさを足で感じながら、仲間たちとのびのびと過ごしています。

裸足あそびは「ふかふかしている」「温かい」「湿っている」など足裏から刺激を受けることで感覚の発達を促します。最近は、熊の出没や酷暑などで、活動の幅が狭まり、自然に触れる機会が減ってきていますが、安全に配慮しながらできる活動を考えています。裸足であそぶのが大好きな子どもたちですので、次の夏休みは雨が降ったら、公園の水たまりに足を入れて泥あそびをしてみたいと思います。子どもたちの“経験”が減っている世の中ですが、たくさんの経験の機会を作ってあげられるよう職員間で常に新しい案を出し合っています。「早く夏休みが来ないかな」とワクワクな子どもたち。夏休みも新しいイベントをお楽しみに！

認定こども園宮古ひかり

主幹保育教諭 清川 和子(きよかわ・かずこ)

うまく切れるかなあ

給食でお世話になっている野菜の取引先から地域貢献のためにとフキの水煮の提供があり、年長児がクッキングをしました。メニューはフキと油揚げの煮物です。調理前に生のフキを触ったり、においを嗅いでみたり。さらに筋取りを体験したあと調理に挑みました。

「猫の手で押さえて切るんだよね」と言い合いながら楽しみにフキを切る順番を待つ中、「うまく切れるかなあ～どうしよう」と不安な気持ちをつぶやくN君の姿がありました。「手伝うから大丈夫だよ」と声を掛けましたが落ち着かない様子。いざN君の番になると自信なさそうに包丁を持ち、切り始めました。

切ってみると思っていたよりもスッと切れたので一本あっという間に切り終わり、曇っていた顔がうれしい表情になり達成感に変わっていました。これからも色々な活動を通して自信に繋げていって欲しいと思います。フキを切った後にみりん・醤油などの調味料で煮込み、3歳児から5歳児まででおいしくいただきました。



家庭的保育事業ぶどうのき

園長 佐々木 妙子(ささき・たえこ)

せんせい しー！そおっと そおっと！

4月から2歳児1人、1歳児1人の2人でのスタートとなりました。6月の花の日は、雨降りでしたが子どもたちが種を蒔いて育てた朝顔の苗を20軒のご近所に届け喜んでいただきました。

Aちゃんはお気に入りの傘をさしながら、「お花が喜んでいるね！」と話し、松ぼっくりが閉じているのを見た保育者が「松ぼっくりが寝ているよ」と言うと、口に指をあて「しー！」と静かにするように保育者を促し、足音をたてないようにしてその場を後にしました。

乗り物が大好きなB君は、園の近くにある山口団地駅で三鉄を見ると絵本「がたんごとん がたんごとん」を連想し、体を左右に揺らしながら「がたんごとん がたんごとん のちゅちゅちゅたさーい」と愛らしく表現します。子どもながらの感性の豊かさに感服です。



上堂ホサナ保育園

保育士 嘉登 礼奈(かと・れいな)

動物とのふれあい遊び



連休明け、お休み気分から気持ちを戻すことは大人でも難しい時があります。子ども達はもっと大変に感じているかもしれません。楽しみな気持ちで登園してもらえるように、上堂ホサナ保育園では、ゴールデンウィーク明けに大型犬（ゴールデンレトリバー）とのふれあい遊びを設定しました。

0歳児は自分よりも大きな生き物に少し戸惑いを感じている様子。泣きべそをかきながらも時々、泣き止んでじっと犬を見つめていました。

1, 2歳児は先生に抱っこされながらゆっくりと犬の体を触ったり、隣に座ったりしてふれあいました。慣れている園児は、怖がることなく手を伸ばし、体を撫で、犬に寄りかかってリラックス。活動を十分に楽しんでいました。

お昼寝から目覚めたあとや、次の日にも園庭を指差して「わんわん!」と声を出し、犬を探す姿が見られました。かわいい動物とのふれあいが、子ども達にとって良い刺激になり、心に残ったのだと感じられました。とても良い機会になりました。

神さまに守られて

フリースクールこいろは、2016年にひかりの子から生み出された、子どもたちの居場所の一つです。こいろでは、年度初めに今年度やりたいことについて意見を出し話し合い、おおまかな活動内容を決めています。その中に、4年目になるお泊まり会があげられました。

今年のお泊まり会では、スペシャルメニューを考え夕食を作ったり、礼拝堂で讃美歌を歌ったりしました。また、園のホール壁にあるボルダリングに挑戦し、その後、真っ暗なかくれんぼを楽しみました。教会ではボードゲームやペープサートの発表をし、一日の終わりに足湯などのリラックスタイムを満喫してくつろぎました。そして安心してぐっすり眠ることができました。

次の日の朝の会での振り返りで「みんなで協力したから、料理は楽しいと思う。楽しかった。ありがとう」「かくれんぼが、とてもこわくて楽しかった。ペープサートを先生に見せられて良かった。様々準備をしてくれて、ありがとうございました」と発表しました。初めから終わりまで、神さまに守られ安心できる環境の中で協力して楽しい時を過ごせたことと、子どもたちの成長が随所に見られたことに心より感謝です。

フリースクールこいろ

ひかりの子 フリースクール係

小野 香織(おの・かおり)



きたくり保育園

主幹保育教諭 森田 万央(もりた・まお)

ハレルヤ！



2026年度より、きたくり保育園では新しい取り組みとして『キッズバイブルタイム』がスタートしました。キッズバイブルタイムでは館坂橋教会の牧師で、園のチャプレンでもある川崎献一先生のことを、子ども達は親しみを込めて「ハレルヤ先生」と呼び、先生やお友達と一緒に楽しく讃美しています。神さまからの温かい御言葉を聞き、祈りに心を合わせる素敵なひとときとなっています。子ども達は日々の園生活の中で、讃美歌やお祈りに触れ、神さまの存在を少しずつ心で感じてくれているようです。

盛岡市から当法人に運営が移管され、「神さまって何だろう？」という素朴な疑問から始まった園生活でした。しかし今では毎日各クラスから元気な讃美歌や、先生と一緒にの小さなお祈りの声が響いています。礼拝の時間を通して、神さまからのお話が子ども達一人一人の心の中に優しく染み渡っていったほしいと願っています。そして、神さまに守られている安心感の中で、自分のことを大切に想い、同時に周りのお友達のことも同じように愛していける豊かな心が育まれますように。

認定こども園ひかりの子

子育て支援施設 Waters of Rest

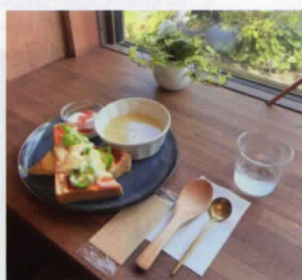
保育教諭 伊藤 裕紀子(いとう・ゆきこ)

特別な朝のひととき



Waters of Restでは、毎月第二土曜日の朝7時から「モーニング」として親子はもちろん、地域の方に朝食を提供しています。6月はモーニングと合わせて子育て支援イベントを同時開催し、親子連れや地域の方など様々な方々が足を運んでくださいました。今回の子育て支援イベントは、ワークショップとして「オリジナルトートバック作り!」を開催。布用クレヨン、ペーパーナプキン、スタンプと素材を親子で選び、どんな手法にするか親子で相談して作成していきます。偶然できた模様に喜びながらどんどん表現していく子どもたちや、夢中になってイメージを慎重に表現しているお家の方と、一人ひとりいろいろな表情や会話のやり取りに心が弾む瞬間をたくさん感じました。自由に、そしてダイナミックに描き、親も子もワクワクしながら「作るって面白い!!」と一緒に味わえた体験となりました。

1階では美味しい香りに包まれて穏やかな朝食時間を過ごす方々、2階では親子でワークショップを楽しむ方々と、それぞれにいつもとは違う特別な朝のひとときとなり、笑顔あふれる温かさで満たされたWaters of Restでした♪



2026年度予算、事業計画を承認 遠野聖光こども園第二園庭土地取得へ

岩手キリスト教学園第146回理事会は2月27日に開かれ、2025年度補正予算、2026年度事業計画、2026年度予算が承認されました。2026年度資金収支予算は1,382,800,687円（前年度比65,752,527円の減）です。主な事業として学園設立40周年記念式典の開催や記念誌の制作を予定。認定こども園宮古ひかりでは園庭改修工事を進めます。

5月29日開催の第147回理事会では2025年度決算と事業報告が承認されました。2025年度事業活動収支における基本金組入前の当年度収支差額は78,407,241円のプラス。基本金組入後の当年度収支差額はマイナス42,014,497円となりました。自己資金による土地購入や新施設整備により基本金繰入額が増加したためです。経常収入に占める人件費の割合は施設によってばらつきがあるものの学園全体で65.03%で健全と言われる70%以下を保つことができました。

6月29日の第148回理事会では、遠野聖光こども園の第二園庭取得が承認されました。土地の広さは約153平方m。園舎から徒歩2分の距離にあります。理事会に先立ち6月19日に開催された第130回評議員会への諮問でも土地取得を「可」とする意見でした。

きたくり保育園 幼保連携型認定こども園に

きたくり保育園は4月から幼保連携型認定こども園になりました。これまでは保護者の就労等で保育が必要な2号認定児、3号認定児のみの入園でしたが、保育要件を問わない1号認定児の受け入れも可能になりました。保護者の就労状況等が変わっても就学まで安心して通園できます。1号認定児は満3歳から入園でき保育料無償化の対象にもなります。

青山幼稚園「こども誰でも通園制度」開始

青山幼稚園は4月から盛岡市の「こども誰でも通園制度」に対応しています。保育所等に通っていない満2歳～満3歳未満の子どもを対象に、保護者の就労状況等にかかわらず、月10時間まで園を利用できます。利用料は1時間300円。時間単位で利用可能です。詳しくは市のホームページ、または青山幼稚園にお問い合わせください。

きらめき第15号 発行日／2026年7月15日

発行人／森分和基

編集／学校法人岩手キリスト教学園

法人本部：岩手県盛岡市上堂一丁目4番10号

TEL 019-656-0237 FAX019-656-8672

郵便振替：02270-2-129076

名義：学校法人岩手キリスト教学園

新しい教区推薦選出理事に太田望氏

3月31日付で教区推薦選出の松浦裕介理事が辞任し、4月1日付で太田望理事が就任しました。太田望理事は青森県の三本木教会牧師で認定こども園ひかり保育園の理事長と副園長を務めています。任期は第14期役員と同じく2028年6月定時評議員会終結時までです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松浦前理事は学園理事の他、遠野聖光こども園長や認定こども園ひかりの子園長、学園評価委員長を務め、長く学園を支えていただきました。心から感謝します。

2026年度の園児・職員数（7月現在）

	園 名	3歳未満	3歳以上	合計	教職員
認定こども園	青 山	4	51	55	22
	遠 野	18	50	68	27
	ひかりの子	37	93	130	36
	のぞみ	27	69	96	39
	宮古ひかり	21	66	87	34
小規模	ホ サ ナ	11	0	11	8
保育所	ア ガ ペ	8	0	8	6
家庭的保育	ぶどうのき	2	0	2	4
保育所	き た く り	29	38	67	26
合計		157	367	524	202

※のぞみ学童・在籍者35人、フリースクールこころ・在籍者2人

※法人本部職員は青山に2人（うち1人園長兼任）、きたくりに1人、のぞみに1人（善隣館書店出向1人を含む）所属

※満3歳児は3歳未満に数えています

編集後記：盛岡の高校では体育祭が催され、クラス毎にTシャツを作るのが慣わしとなっています。背中に各々好きな文字を入れて大会に臨むそうで、我が子もとても楽しみに参加していました。この時期はクラスTシャツを着て歩いている高校生が多く、ついつい背中を見てはにやけてしまいます。子供達の楽しい雰囲気にとっても心が温くなりました。（小）

タンポポは、大輪の花を咲かせたあと、一つひとつの綿毛が種を携えて空に飛び立ちます。花が終わりしぼんだタンポポをほぐしてみると、花びらの下に、まだ白い小さな種がびっしりつまっているのを観察できます。保育教諭でヨガ講師でもある佐々木志歩先生は「タンポポの赤ちゃんがいっぱいいるんだよ」と息子さんに教えてもらったそうです。素敵な発見ですね。故・太田春夫先生はタンポポの一生を描いた絵本がお気に入り、で、地中深く根を張るタンポポのすこさを子どもたちにも保育者にも伝えたかったのではないのでしょうか。（恵）

表紙の写真： のぞみこども園の3歳児さん。園庭隅の花壇とフェンスの狭い空間に座り込み、懸命に土を掘り返しています。探しているのはダンゴムシ。ボールのようにころころ転がってとても魅力的なのです。その隣では、女兒たちが色水づくりのために、黄色や紫のスミレの花びらをせっせとビニール袋に集めています。身近な動植物とふれあいながら想像を膨らませ、どんどん遊びを展開させていく子どもたちの才能は、まさに神さまからのギフト。一つひとつの経験が豊かな育ちにつながっていくことでしょう。